

多義語における語義の区切り方をめぐって

—— 数量、実質、刺激を表す形容詞の場合 ——

丹 保 健 一

On Classification of Each Senses of Polysemic Ajective

Kenichi TANBO

〔キーワード〕 多義語、語義分割、数量形容詞、実質形容詞、刺激形容詞、辞書

〔要 旨〕

多義語に見られる語義分割（意味立項）の実態を、「多い」「無い」「新しい」「重い」「強い」「難しい」「青い」「明るい」「甘い」「痛い」「美味しい」「寂しい」「寒い」を数種の辞書によって調査し、これらの形容詞の語義分割の基準として、①具体性、抽象性 ②モノ性、ヒト性、コト（ガラ）性、③実質、刺激、時間、価値、数量、程度、機能、体力、能力、姿態、性格、態度、心情、④体感、心感、④存在、所有、⑤原因・要因、⑥評価、が重要な位置を占めることを示した。

I. は じ め に

本稿は、多義語の語義分割（意味立項）の基準となっていると思われるものを、現行辞書によって調査し・分析し、多義分割の在り方を考える基礎資料を作成しようとするものである。すでにこのような目的で、位置形容詞、形状形容詞についての調査・分析を試みた。⁽¹⁾ また、日本語に対する多義語研究の現状及び課題については、丹保(1991b)で触れた。

I-1. 調査・分析対象語彙

調査・分析の対象とする語は、基礎語彙的性格を持つ現代日本語形容詞である。本稿で扱う語彙は、数量を表す形容詞「多い」「無い」、実質を表す形容詞「新しい」「重い」「強い」「難しい」、刺激を表す形容詞「青い」「明るい」「甘い」「痛い」「美味しい」「寂しい」「寒い」の13語である。これらの語彙は、次の①～③の条件によって選んだ。

- ① 『日本語教育語彙資料(1)(2) 低学年初級』の形容詞語彙であること（『日本語教育のための基本語彙調査』において、a印が施されているもの）。
- ② 『学研国語大辞典』において最初に挙げられている意味が、大野、浜西(1981)の意味分類の「数量」「実質」「刺激」のいずれかの意味に対応していると考えられるもの。（以下各々の形容詞を、数量形容詞、実質形容詞、刺激形容詞と呼ぶことがある。）
- ③ ①②の条件を満たしていても語義的に似通っているものは除く。（除いたものは、「赤い、軽い、古い、弱い、暑い、熱い、黄色い、暗い、黒い、白い、涼しい、冷たい」の12語である。）

I-2. 記述例採集辞書について

(1) 多義分割例は、身近にある辞書で、主として現代語を扱っているものによった。記述例を採集した辞書は、①『学研国語大辞典』②『新潮現代国語辞典』③『岩波国語辞典』（第三版）④『例解新国語辞典』⑤『現代国語例解辞典』⑥『日本語大辞典』の六つである。以下、各々「学研」「新潮」「岩波」「例解」「現代」「日本」と略称する。

(2) この他、『基礎日本語』『動詞の意味用法の記述的研究』（以下、各々「基礎」「国研」と略称する）に記述の見られるものは参考として挙げた。

(3) 各辞書の特徴を本稿に関わりの深い部分についてまとめておく。

	「学研」	「新潮」	「岩波」	「例解」	「現代」	「日本」
目的	現代生活	現代生活	現代生活	学習	現代生活	現代生活
対象	一般	一般	一般	中学生	一般	中高の学習 一般 中学高校生
語彙	現代語中心	現代語中心	現代語中心	現代語中心	現代語中心	現代語中心
見出し語数；概数	10万2千	7万7千	5万7千	4万 解説した語含む	6万？	17万5千
語釈	細分	細分	並列的にならない記述	基本義詳しく	普通	事項を含む簡潔
多義記述	根本的意義を先に	代表的意味に重点	最も普通の意味を先に根本義説明			現代語の意義を中心に
用例	具体例豊富	和英語林集成の例多し				
位相語等		慣用句諺は見出し語中				

I-3. 方法

(1) 各辞書によってどのような意味が区切られやすいかを見ていく。独立して記述されやすい度合いは次の式（私案）によって示す。

各多義の独立度 = $(1 / \text{辞書Aの多義数} + 1 / \text{辞書Bの多義数} \dots) / \text{辞書数}$

各辞書の多義数に関しては、より実態を反映させるべく次のような処理をしている。より具体的には個々の語義における数値を参照されたい。

①複数の語義が当該辞書において分けられていない場合

イ. ある語義が、当該辞書において、他の語義と共に挙げられ、その語の意味を伴うこともあるとしてある場合は、その語義の数値に $(1 / 2)$ を乗じたものをその辞書における独立度とする。（例；「あたらしい」の「現代的、進歩的」における「岩波」の①ハ）

ロ. ①において中心的な位置を占める語義は、単独の場合と同じように扱う。（例；「あおい」の「初出」における「岩波」①）

ハ、それらの語義が並列（同等の位置）に示されている場合は、各々 $1/2$ を乗ずる。
（例；「ない」の「存在しない」「持っていない」における「新潮」の①）

ニ、その語義が下位の分類または先に示した意味に含まれることが明らかな場合は、 $1/2$ を乗ずる。（例；「あまい」の「糖分の持っている味」における「新潮」の①）

②二つの意味を一つにまとめて示す場合は、まとめられた語義の当該辞書における分割度は、各々の数値を加えたものとする。（例；「あおい」の「病気で顔色が悪い。」「心配で顔色が悪い。」を「顔色が悪い」にまとめた場合。）

（２）分析の視点として、イ、その語の意味を成立させるのに関わっている意味要素の数、並びに形容詞との関係の相違、言い換えれば、必須的意味成分数および意味格（以下、この二つを総称して格体制と呼ぶことがある）の相違、ロ、相互の各成分に見られる意味特徴の相違、を考えている。しかし、分析の過程でそれ以外の要素が出てくると思われる。

各成分の意味特徴としては、これまでの調査（丹保1990c、1991b）によって挙げられた①具体性、抽象性、②モノ性、ヒト性、コト（ガラ）性、③〔時間〕〔程度〕〔評価〕〔価値〕〔刺激〕〔数量〕〔様態〕〔能力〕〔境遇〕〔情意〕等の内、①②の意味特徴が働いていることが先ず予想される。③のレベルの意味特徴は語彙によっては見られないものもあろうし、又新しい意味特徴や異なるレベルの意味特徴も準備する必要も出てこよう。この他、認知方法・感覚器官の相違も重要な位置を占めることが予想される。

（３）扱う形容詞は先に示した通りであるが、補助用言、助動詞、接辞又はそれに類するものは対象外とする。

（４）意味立項の配列順については今回は考慮しなかった。いずれ別の機会に扱うことにしたい。⁽²⁾

Ⅱ. 辞書に見られる多義分割の実態

辞書名の右に記した数値はその辞書における多義数を示す。括弧内の数値は下位分類を含めたものである。括弧内の数値に下線をほどこしてあるものは、その下位分類数を当該辞書の多義数として扱ったことを示す。

Ⅱ－１．「おおい（多い）」

（１）「学研」 1

①〔数・量・度数などが〕たくさんある。

（２）「新潮」 1

①数量の程度が大きい。たくさんだ。

（３）「岩波」 1

①数や量がゆたかだ。たくさんある。

（４）「例解」 1

①量がたくさんある。また、回数などがふつうと比べてたくさんだ。

（５）「現代」 1

①数量が大である。たくさんである。

（６）「日本」 1

①数や量がたくさんあるさま。ゆたか。

参考；「基礎」 1

①物事の数量が標準や比較の対象を上回る状態。

「おい」の語義を分けている辞書はない。式に当てはめれば、独立度＝1ということになる。語義をさらに分けようとするれば、「数」「量」「度数」「その他」による方法が考えられる。

II-2. 「ない（無・亡）」

(1) 「学研」 3 (5)

① [物・事のように、心をもたないものが] 存在しない。(参考) 特例として、次のように主語が有心物の場合でもいう。イ、所有されていない、の意。ロ、有無が問題にされ、存在しない。ハ、物のように意志をもたないものとして見る場合。②もっていない。③ [すでに死んで] この世にいない。

(2) 「新潮」 3

①存在しない。持っていない。②なにかをするには足りない。不足である。③ (亡い) 死亡している。生存していない。

(3) 「岩波」 ?

① 「ある」の打ち消し。あるとは認められない状態だ。

参考；「岩波」ある 2

①目の前に見えるとか触れて固さを感じるとか、何らかの感じをその人に起こさせるものを認めると共に、他の人もそれを認めるだろうと期待する (信ずる) 場合、また、感覚を越えたものについても、思考の対象としてこれに似た状況が考えられる場合に、そのものが「ある」という。あるということは、直接的には右のような仕方を通して捉えるから、当の事物が我々の世界に現れること、そのものとして持続すること、どの位置かを占めること、何かとの特定関係 (特に所有関係) に立つこと等を、結果的に表す。

②特に、次のようなあり方を言う。イ、この世に生きている。ロ、生活する。暮らす。ハ、＜数量を表す語を受けて＞その分量が認められる。ニ、時の経過がある。時がたつ。ホ、＜引用の「と」またはそれに当たる表現を受けて＞ (… という) 言葉がある。ヘ、それに依存する。ト、＜動作を表す漢語や動詞連用形を受けて＞なさる。③＜他動詞連用形＋「て」を受けて＞動作結果の現存を意味する。

(4) 「例解」 2

①「無い」存在しない。持っていない。②「亡い」すでに死んでこの世にいない。

(5) 「現代」 2

①事物が存在しない。② (亡) 人がこの世にいない。③比べるものがない。

(6) 「日本」 2

①存在しない。②持っていない

参考；「基礎」 1

その事物が存在することを否定する認定である。肯定する認定は「ある」。日本語では、非存在は形容詞で認定され、存在は動詞で認定される。(分析) 略。

以上の辞書 (「岩波」は除く) によれば多義しては、次のものが挙げられる。

①存在しない。②生存しない。③所有しない。④足りない。⑤比べるものがない。

①についてのみ計算の過程を示しておく。

$$\textcircled{1} = (1/3 + 1/6 + 1/4 + 1/3 + 1/4) / 5 = 0.267$$

数値は12桁で四捨五入したもの（計算機の関係による）をさらに小数点4桁で四捨五入したものである。以下同じ。

①～⑤の各辞書における独立度及び平均独立度は各々次のようになる。

	学研	新潮	例解	現代	日本	独立度
①存在しない。	1/3	1/6	1/4	1/3	1/4	0.267
②生存しない。	1/3	1/3	1/4	1/3	1/4	0.300
③所有しない。	1/3	1/6	1/2	—	1/2	0.300
④足りない。	—	1/3	—	—	—	0.067
⑤比べるものがない。	—	—	—	1/3	—	0.067

上の値によって、次のことが読み取れる。①②③は、相対的に独立度が高く、独立して記述されやすい。④⑤はそれらに比べれば独立度はかなり低い。

①②③を分けているものとして、①③が「Aガアル」であるのに対し、③は「BニAガアル」であるといった格体制の別がある。①②を分けている大きな要因に、形容主体の別、つまり、①の主体が「モノ（－有情）」、②の主体が「ヒト（＋有情）」であることが考えられる。まとめておこう。

「ない」	┌	〔モノ<ガ>〕	———	〔：存在〕	———	①
		〔ヒト<ガ>〕	———	〔：存在；生存〕	———	②
		〔ヒト<ニ>：所有／モノ<ガ>：存在〕				③

注、以下、〔 〕印は格成分の意味特徴を、< >印は意味格を、；印はその内容を、：印は格成分の属性、感覚等の意味特徴を各々示す。また、／印は別の格成分であることを示す。なお、<ガ>は省略することがある。

「ない」は普通、形容詞と分類されるが、「岩波」に「『ある』の打ち消し」とあるように、形容詞中では特別な位置を占める。〔存在〕〔所有〕といった動詞的な意味特徴が働くのはそのことと関連を持つものと思われる。

Ⅱ－3. 「あたらしい（新しい）」

(1) 「学研」4

①〔物ができてから、また物事が始まってから〕あまり時間がたっていない。②〔野菜・魚などがとりたてで〕生き生きしている。③今までにそういうものがなかった。はじめてのものだ。④〔今までになく〕現代的・進歩的である。

(2) 「新潮」6

①時間的にみて、もっとも今に近い。あらたである。②初めて現れたものである。③現代的・進歩的

である。④生鮮食品がとてたばかりでみずみずしい。生き生きしている。新鮮である。⑤時間がたっていない。又は、一度も使っていない。⑥生々しい印象である。

(3)「岩波」1 (4)

①成り立ってから、または現れてから、まだ時間がたっていない。イ、できて間がない。ロ、なま物が新鮮さを保っている。ハ、今までには無い、または様子が違う。今度初めてのものである。現代的・進歩的の意を込めても使う。ニ、改めた後のものである。

(4)「例解」2

①今までになかった、はじめてのようす。②生まれたり、作られたりしてから、あまり時間がたっていない。

(5)「現代」4

①初めてである。ある状態になったばかりである。②物事ができたばかり、また、使い始めたばかりである。③新鮮である。生き生きとしている。④今まではなかったさま。現代的な、進歩的な。

(6)「日本」3

①今までにない。はじめてである。②生き生きしている。③使い古されていない。

参考；「基礎」2

今まで存在しなかった事物が現れて間もない状態をいう。新しい状況として次の二つがある。①現れたばかりで、まだあまり時を経っていない状態。②現れた事物が、それまでの事物にはない違った点を有しているため、それに取って替わった状態の場合。

「新潮」の多義記述中①と⑤との別が分かりにくい。ここでは、各々の用例が①「新しく出来た家」「新しく来た教師」⑤「新しき着物」「それにしては非常に新しい」であることから、「(できて、はじまって)時間がたっていない。」の意味が「新潮」の①に記述されているとともに⑤の一部に他の意味とともに並記されていると判断し、「(できて、はじまって)時間がたっていない。」は、 $1/6 + 1/12 = 3/12 = 1/4$ とした。「使い古されていない、未使用」は、 $1/12$ として計算した。

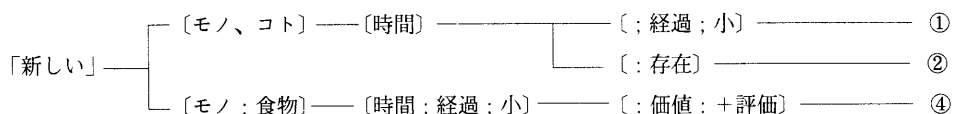
又、「現代」においては、「使い古されていない。未使用」の意味は、 $1/8 + 1/8 = 1/4$ とした。

	学研	新潮	岩波	例解	現代	日本	独立度
①できてはじまってから時間がたっていない	$1/4$	$1/4$	$1/4$	$1/2$	$1/4$	$1/3$	0.306
②初出だ。	$1/4$	$1/6$	$1/4$	$1/2$	$1/4$	—	0.235
③現代的・近代的だ。	$1/4$	$1/6$	$1/8$	—	$1/8$	—	0.111
④新鮮だ。	$1/4$	$1/6$	$1/4$	—	$1/4$	$1/3$	0.208
⑤使い古されていない。未使用。	—	$1/12$	—	—	$1/4$	$1/3$	0.111
⑥印象に新しい。	—	$1/6$	—	—	—	—	0.028
⑦改めた後だ。	—	$1/6$	$1/4$	—	—	—	0.069

主要な多義としては、①時間がたっていない。②初出だ。④新鮮だ。がある。これらの意味は、互いに共起しうるものを含む。例えば、②④には、①の意味が常に含まれる。この他、③の「現代的・近代的だ。」を「岩波」において、「ハ、今までには無いまたは様子が違う。今度初めてのものである。現代的・進歩的の意を込めても使う。」としていることなどからも、多義の捉え方に少なくとも二つの視点があることに気付かされる。このことは重要な問題である

が、当面の目標から外れるので、ここではこれらの分け方を、横分割型と縦分割型と仮称しておくに止めたい。

主要な各多義についてまとめておこう。形容主体の別からは、①②は、「モノ」又は「コト」、④は「モノ；食物」とであるという違いを指摘できよう。①②④の中では、①「モノ、コト：時間；経過」、②「モノ、コト：存在？」、④「モノ；食物：価値：+評価」からの形容ということができよう。次のようにまとめることができよう。



注；〔 〕内のカンマ「、」は、「又は」を示す。

Ⅱ－４．「おもい（重い）」

(1)「学研」3

①そのものを持ち上げようとするときに、多くの力を要する。ある物を基準にして、それより目方がある。また、そのような感じである。②「気分が」はればれしない。不快だ。③程度がはなはだしい。ひどい。また、重要である。

(2)「新潮」7

①重量が多い。②心が圧迫された感じだ。晴れ晴れしない。③容易に行動しない。容易に動かない。④体の動きや働きが悪い。軽快さが無い。にぶい。⑤じゅうようである。重大である。⑥程度が大きい。ひどい。⑦おごそかである。おもおもしろい。

(3)「岩波」2 (3)

①目方が大きい。②程度がはなはだしい。イ、大切だ。重大だ。ロ、容易なことではない。

(4)「例解」5

①ものを持ちあげたり、動かしたりするのに、大きな力がある感じだ。②心に負担が感じられる。③気分が悪い。④動きがにぶい。⑤程度が大きく、重大である。

(5)「現代」5

①目方が多い。重量がある。②物事の程度が甚だしい。並々でない。③身分が高い。また、重要である。④気持ちが晴れ晴れとしない。⑤動き、働きがにぶい。

(6)「日本」5

①目方・程度などが大きい。②らくでない。たいせつだ。③身分や地位が高い。④おしつけられるよううだ。いやな感じだ。⑤動き・働きがにぶい。

参考；「基礎」5(?)

①物理的に目方の多いことが本義で、そこから②動きの鈍い感じ、③生理的、精神的に強くのしかってくる感じ、④晴れやかさのない感じ⑤などが生まれる。

(「基礎」中の丸中数字①～⑤は丹保が施したものである)

(6)「日本」6

① 丈夫だ。健康だ。②力がある。③勇ましい。④かたい。⑤激しい。厳しい。

⑥<俗語>よく知っている。明るい。

参考；「基礎」1

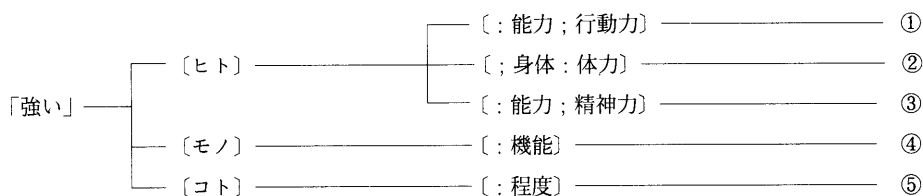
「強い／弱い」は、他からの作用の抵抗に対抗する力の大小を問題とする。「強い」は他からの作用や抵抗に負けないほどの力である状態。その逆が「弱い」。

表としてまとめると次のようになる。

	学研	新潮	岩波	例解	現代	日本	独立度
①他に負けない。	1／7	1／9	1／3	1／3	1／5	1／6	0.215
②健康で丈夫である。	1／7	1／9	1／9	1／9	1／5	1／6	0.140
③屈しない。	1／7	1／9	1／9	1／9	1／5	1／6	0.140
④ゆるみがない。	1／7	1／9	／	／	1／5	1／6	0.103
⑤勢いが激しい。程度が大だ。	1／7	1／9	1／3	1／3	1／5	1／6	0.215
⑥厳しい。	1／7	1／9	／	／	1／5	／	0.076
⑦「～につよい」で、優れている。	1／7	1／9	／	／	／	1／6	0.070
⑧耐久力が大きい。	／	1／9	1／9	1／9	／	／	0.065
⑨強含み。(株式用語)	／	1／9	／	／	／	／	0.019

主要な多義である①②③④⑤の意味特徴を、その相違に注目すれば次のようにまとめることができる。

①〔ヒト：能力；行動力〕 ②〔ヒト；身体：体力〕 ③〔ヒト：能力；精神力〕 ④〔モノ：機能〕 ⑤〔コト：程度〕



Ⅱ－6.「むずかしい（難しい）」⁹⁾

(1)「学研」5 (6)

①わかりにくい。理解しにくい。②複雑で、やっかいである。イ、解決しにくい。ロ、〔なしとげるのが〕容易でない。いろいろと面倒である。困難である。③〔病気が重く〕回復のみこみが（ほとんど）ない。④〔人のいうことを〕簡単に聞き入れない。苦情・不満が多い。⑤不機嫌で近づきにくい。

(2)「新潮」5

①わかりにくい。理解するのが困難である。難解である。②やりにくい。なしとげるのが困難である。③複雑で面倒である。④病気が重くて助かりそうもない。⑤不満や苦情が多くて扱いにくい。気むずかしい。⑥機嫌が悪い。⑦はかばかしくない。苦しい。

(3)「岩波」2 (5)

①簡単には始末がつけられない（有様だ）。イ、解決しにくい。しとげがたい。ロ、手数が掛かったり正確さについて厳しい条件があったりして、やっかいだ。ハ、直りにくい。ニ、（なにかにつけ）難癖をつけ、苦情が多い。②きげんが悪い（表情だ）。

(4)「例解」5

①わかりにくい。②なかなかできない。まとまりにくい。③わずらわしい。めんどうだ。④きげんがわるい。また、そう感じられてとりあつかいにこまる。⑤病気やけががひどくてなおりにくい。

(5)「現代」6

①不快な表情や態度をあらわに見せている。②ごたごたとして煩わしいさま。面倒だ。③回復しにくいほど病気が重いさま。④理屈や論理が複雑で理解しにくいさま。⑤困難でおぼつかないさま。⑥理屈がちであったりして気軽に接しにくいさま。

(6)「日本」6

①わかりにくい。②やっかいだ。わずらわしい。③実現しにくい。困難だ。④病状がおもわしくない。⑤苦情が多い。気難しい。⑥機嫌が悪い

参考；「基礎」

その事柄を解決または実現へともっていくことができにくい状態。能力的に、または周囲の条件から見て困難さの度合いが基準を上回る状態。

まとめておこう。

- ①分かりにくい。
②やっかいである。(複雑)
③回復しにくい。
④苦情が多い。
⑤不機嫌だ。
⑥なしとげにくい。
⑦はかばかしくない。

学研	新潮	岩波	例解	現代	日本	独立度
1 / 5	1 / 7	／	1 / 5	1 / 6	1 / 6	0.146
1 / 5	1 / 7	1 / 5	1 / 5	1 / 6	1 / 6	0.179
1 / 5	1 / 7	1 / 5	1 / 5	1 / 6	1 / 6	0.179
1 / 5	1 / 7	1 / 5	1 / 5	1 / 6	1 / 6	0.146
1 / 5	1 / 7	1 / 5	1 / 3	1 / 6	1 / 6	0.202
／	1 / 7	1 / 5	1 / 5	／	1 / 6	0.118
／	1 / 7	／	／	1 / 6	／	0.052

これらの多義は、形容主体のみで解決がつかない側面をもつ。①②のように「Aがむずかしい」において、「ヒトにとってどうである」かによって、①か②かが決定されることがある。隠されている〔ヒト〕が重要な位置を占めているからである。このような場合における〔ヒト〕を【ヒト】で表すことにしよう。主要な多義である①②③④⑤⑥の意味特徴をその相違に注目すれば次のようにまとめることができよう。

- ①〔コト／【ヒト】：理由？：能力；理解力〕 ②〔コト／【ヒト】：理由？：能力；解決力〕
③〔ヒト：身体；病状〕 ④〔ヒト：性格〕 ⑤〔ヒト：態度〕 ⑥〔コト／【ヒト】能力：理由？：実現力〕



Ⅱ－７．「あおい（青い）」

(1)「学研」5

①青の色をしている。②緑色である。③青に似た感じの色で薄暗い。④「病気の様に」顔に血の気がない。顔色が悪い。[心配や恐怖のあまり血の気を失うようすにも用いる。] ⑤未熟である。

(2)「新潮」3

①青色である。△緑の場合にも通じて使う。②血の気がひいて、顔が青色い。蒼白である。③未熟である。

(3)「岩波」2 (3)

①青の色をしている。②青い感じを与える。イ、顔が青色い。青ざめて血の気がない。ロ、未熟だ。

(4)「例解」4

①晴れた空や深い海の色をしている。②顔色に血の気がない。③果実などがまだすこしも熟していない。④緑色をしている。

(5)「現代」2

①青の色をしている。②(未熟な果実などは青色であるところから) 人格、処世術、技芸、学問などが未熟である。

(6)「日本」5

①青い色である。②草や木が緑色である。③若い、未熟である。④病気などで顔色が悪い。⑤心配やおそれで血の気がなくなる。

表化すると次のようになる。

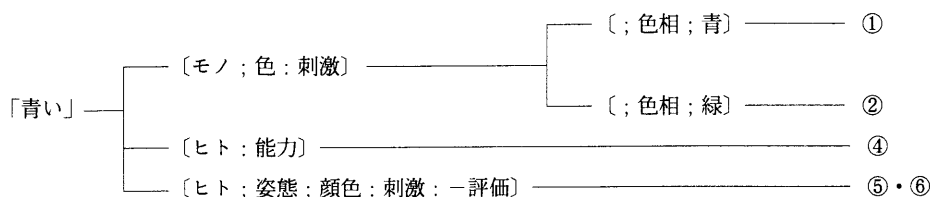
- ①青の色だ。
②緑の色だ。
③青に感じの色で薄暗い。
④未熟である。
⑤病気で顔色が悪い。
⑥心配、恐れで顔色が悪い。
表化すると次のようになる。

学研	新潮	岩波	例解	現代	日本	独立度
1 / 5	1 / 3	1 / 3	1 / 4	1 / 2	1 / 5	0.146
1 / 5	／	1 / 6	1 / 4	／	1 / 5	0.179
1 / 5	／	／	／	／	／	0.179
1 / 5	1 / 3	1 / 3	1 / 4	1 / 2	1 / 5	0.146
1 / 10	1 / 6	1 / 6	1 / 8	／	1 / 5	0.202
1 / 10	1 / 6	1 / 6	1 / 8	／	1 / 5	0.118

参考；⑤と⑥を「顔色が悪い」としてまとめると、0.253 となる。

①②④を主要な多義であるとし、又、⑤⑥を一つにまとめて考えれば、それらの意味特徴は、次のようにまとめることができよう。

- ①〔モノ；色：刺激；色相；青〕 ②〔モノ；色：刺激；色相；緑〕 ④〔ヒト：能力〕 ⑤⑥〔ヒト；姿態；顔色：刺激：－評価〕



Ⅱ－８．「あかるい（明るい）」

（１）「学研」 6

①「物がよく見えるように」十分光を・だして（通して）いるようす。又、光がさしている状態である。②「性格・表情・状態などが」楽しそうである。ほがらかである。③やましいことや、かくしごとがなく、正しい。④「将来などに」期待がもてる。⑤「色が」にぎりなく、はっきりしている。くすんでいない。⑥ある物事についてよく知っている。くわしい。

（２）「新潮」 6

①光が十分で、ものがよく見える。②色彩の明度が高い。③性格・表情などが晴れやかで、心にかげりがない。明朗である。活発である。④その事に希望がもてる。⑤やましい所がない。公明正大である。⑥（「…に明るい」の形で）そのことに関してくわしく知っている。精通している。

（３）「岩波」 3（5）

①光が十分にさしている（それゆえ物がはっきり見える）状態だ。②性格・表情・表現内容などが晴れ晴れしている。イ、ほがらかだ。明朗だ。ロ、陰険な所がなく公明だ。ハ、色がくすんでいない。③その物事をよく知っている。精通している。

（４）「例解」 5

①光の量がじゅうぶんで、ものがよく見える。②色の調子が、黒や灰色を含まない。③暗いところがなく、ほがらかだ。④晴れやかで、希望がもてる状態だ。⑤その方面のことをよく知っている。

（５）「現代」 6

①光が強い。また、物がよく見える状態である。②澄んで、華やかな色をしている。③朗らかで楽しそうである。④争い、不正などがなく、明朗、公明である。⑤希望が持てるさまである。⑥（多く「…に明るい」の形で）その方面に通じていて、よく知っている。

（６）「日本」 4

①光がじゅうぶんにさして物がよく見える。②ほがらかだ。陽気だ。③よく知っている。④色がくすんでいない。

参考；「基礎」 2

物事がよく見え、よく分かるほど光が十分ある状態をいう。物の姿・形がはっきりと見えない、分からない状態は「暗い」である。「明るい」状態の在り方から次の二つに分けられる。①その物が「明るい」という属性を有している。②その人物がある事柄に対して明るい（よく知っている）状態にある。

参考；「国研」国研の記述は、個別的記述にある「明るい」についてのみ挙げる。但し、記述が、434～456p に渡っている為、個々の意味記述の一部を「国研」から抜き出して示す。

①〔0〕または、〔00〕光が十分にあると（感じられる）状態だ。明暗感覚に関する属性。②〔01〕色の性質について、白色がかっている。色彩感覚に関する属性。③〔11〕気持ち、心のはればれとして、ほがらかだ。④〔1〕物事から与えられる印象が〔00〕と合い通じるものをもっている。プラスの評価を付随させることが多い。⑤〔12〕人間の表情や動作、様子などが楽しそうで、晴れやかだ。表情、動作などに楽しい愉快な気持ちが現れている。⑥〔13〕人の性質が明朗で陽気だ。⑦〔14〕ものごとの与える感じが、晴れ晴れとして楽しい。⑧〔15〕（社会的な）物事の行われ方に、不正やうしろ暗いところがなく、公正・公明だ。⑨〔16〕未来のことに対して、希望をもつことができる。楽しい状態が予想される。⑩〔2〕ある人が、その物事についてよく知っている。精通している。

（注：〔 〕内の記号は「国研」による。）

六つの辞書について表化すると

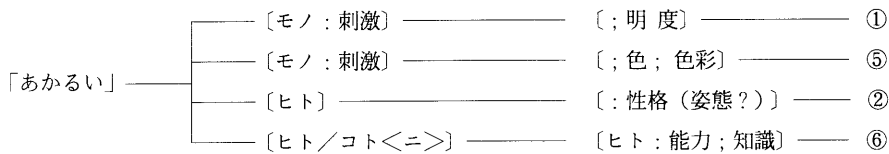
次のようになる。

- ①光があり、よく見える様子。
- ②性格、表情が楽しそう。
- ③公明、公正。
- ④希望・期待が持てる。
- ⑤色がはっきりしている。
- ⑥あることに詳しい。

学研	新潮	岩波	例解	現代	日本	独立度
1 / 6	1 / 6	1 / 5	1 / 5	1 / 6	1 / 4	0.146
1 / 6	1 / 6	1 / 5	1 / 5	1 / 6	1 / 4	0.179
1 / 6	1 / 6	1 / 5	—	1 / 6	—	0.179
1 / 6	1 / 6	—	1 / 5	1 / 6	—	0.146
1 / 6	1 / 6	1 / 5	1 / 5	1 / 6	1 / 4	0.202
1 / 6	1 / 6	1 / 5	1 / 5	1 / 6	1 / 4	0.118

これらの多義は、形容主体のみで解決がつかない側面をもつ。⑥のように「AがBニあかるい」のように⑥の意味の成立に2つの意味項目が関わっているからである。A、Bの両面を考慮に入れる必要がある。そのことを踏まえたうえで、主要な多義である①②⑤⑥の意味特徴を、その相違に注目しつつまとめておこう。

①〔モノ：刺激；明度〕 ②〔ヒト：性格〕 ⑤〔モノ：刺激；色；色彩〕 ⑥〔ヒト：能力；知識／コト＜ニ＞〕



注；下線部を施した意味特徴は、同一行中の他の下線部と同じ意味特徴であることを示す。

Ⅱ－9.「あまい（甘い）」

（1）「学研」11

- ①糖分のもっている味である。②〔料理で〕塩気が少ない。③〔においが〕糖分を思わせるようだ。
- ④心がとけるようだ。楽しい。⑤人を喜ばせてさそいこむようだ。⑥〔男女間の〕愛情が細やかである。
- ⑦〔しつけ・採点などが〕きびしくない。親切で、なんでもうけいれる。⑧深く考えない。考えがたりない。のんきである。⑨大したものではない。⑩〔刃物の〕切れ味が悪い。にぶい。⑪ぴったり合わない。ゆるい。

（2）「新潮」9（11）

- ①イ、糖分の味がする。ロ、（料理の）塩加減が足りない。ハ、塩味が少ない。塩分をふくまない。
- ②糖分の味を連想させるような、いい香りがする。③表情や音声がやさしい。④緊張がゆるんだ状態にある。⑤人を喜ばせ、誘いこむようである。⑥物事の判断や事態への対処のしかたに厳しさが無い。てぬるい。⑦（「…に甘い」の形で）多少の過失や無理などの無理な要求などを認めて、制限がゆるやかである。⑧（ねじやピントなどが）ぴったり合わない。⑨物の性質がやわらかい。

（3）「岩波」4（6）

- ①砂糖・みつなどの糖分の味がする。②糖分の味を思わせる。③人の気に入りそうな言い方だ。④きつい感じがしない。鋭くない。イ、てぬるい。きびしくない。ロ、だらしない。ハ、切れ味が悪い。

(4)「例解」6

①砂糖や蜜のような味だ。②親しみやすく、とろけるようだ。③塩気がない、また、そのためにものたりない感じがする。④ものごとに対する態度がゆるやかである。きつくない。⑤自分につごうのよい見かたをして満足している。⑥しっかりしていない。じゅうぶん役目をはたさない。

(5)「現代」6

①砂糖や蜜などの糖分の味がある。②塩気が薄い。辛くない。③心がとろけるように、うっとりと快い。④厳格でない。⑤しっかりしていない。⑥刃物の切れ味が悪い。

(6)「日本」8

①砂糖などのような味である。②塩気が少ない。③にぶい。ゆるい。④きびしくない。⑤するどくない。⑥うれしがらせるようだ。⑦気持ちよくて親しみやすい。⑧だらしない。

参考；「基礎」3

主として味覚において、糖分の持つ刺激に対する感覚。その柔らかく甘美な快い刺激に対して、激しく厳しいほうの刺激を「辛い」で表すが、感覚として対応関係にあるわけではない。言葉としては、ゆるやかで厳しさのない「甘い」に対して、厳しさを表す「からい」は対応関係に立つが、「あまい」のすべての用法が「からい」で対応するわけではない。

①物の属性。②人間行為の在り方。③対象に対する関係

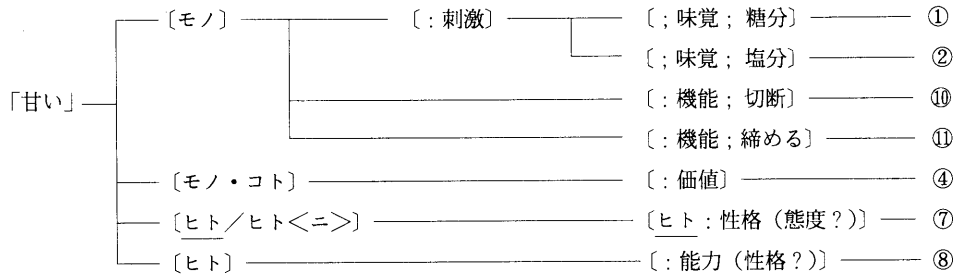
「新潮」の①イ、ロ、ハは、イを①の代表的意味とし、ロ、ハを下位分類とする。各々の数値は、1/6、1/12、1/12となる。

表化しておこう。

学研	新潮	岩波	例解	現代	日本	独立度
①糖分の持っている味。	1/11	1/9	1/6	1/6	1/8	0.139
②塩気が薄い。	1/11	1/18	—	1/6	1/8	0.111
③臭いが糖分を思わせるようだ。	1/11	1/9	—	1/12	—	0.048
④心がとろけるようだ。	1/11	1/9	—	1/12	1/8	0.096
⑤人を誘い込むようだ。	1/11	1/9	1/6	—	1/8	0.083
⑥愛情が細やかだ。	1/11	—	—	—	—	0.015
⑦厳しくない。	1/11	1/9	1/6	1/12	1/8	0.096
⑧深く考えない。	1/11	1/9	1/6	1/12	1/8	0.124
⑨大したものではない。	1/11	—	—	—	—	0.015
⑩よく切れない。	1/11	1/9	1/6	1/6	1/8	0.110
⑪ゆるい。	1/11	1/9	—	1/6	1/8	0.110
⑫塩気がない。	1/11	1/18	—	—	—	0.024
⑬やわらかい。	—	1/9	—	—	—	0.019
⑭緊張が緩んだ状態にある。	—	1/9	1/6	—	—	0.046

これらの多義は、形容主体のみで解決がつかない側面をもつ。⑦のように「AがB＝あまい」のようにその語義の成立に2つの要素が関わっているからである。A、Bの両面を考慮に入れる必要がある。そのことを踏まえたうえで、主要な多義である①②④⑦⑧⑩⑪の意味特徴を、その相違に注目すれば次のようにまとめることができよう。

- ①〔モノ：刺激；味覚；糖分〕 ②〔モノ：刺激；味覚；塩分〕 ④〔モノ・コト：価値〕 ⑦〔ヒト：性格（態度？）／ヒト＜ニ＞〕 ⑧〔ヒト：能力（性格？）〕 ⑩〔モノ；道具：機能；切断〕 ⑪〔モノ；道具：機能；締める〕



II-10. 「いたい（痛い）」

(1)「学研」2

①体の一部を打たれたり、強く押されたり、きずつけられたりしてたえがたい感じだ。②「弱点をつかれたりして」ひどくこまる。つらく苦しい。

(2)「新潮」3（4）

①体に刺激・打撃・損傷などを受け、痛覚がある。②精神的な痛みを感じる。イ、弱点をつかれて困る。ロ、精神的な打撃を大きく、かなりの負担になる。手痛い。③経済的に負担を感じる。つらい。

(3)「岩波」5

神経に耐えがたいほど強い刺激を受けた感じだ。①刃物で手を切る、虫歯がうずく等、外力・病気で肉体や精神が苦しい。②しまったと思うほど手ひどい打撃を受けたり、弱点を鋭く突かれたりして、つらい。③心がうずくようにつらい。④感に耐えない。見事だ。⑤（多くは連用形で）はなはだしい。ひどい。

(4)「例解」2

①たたかれたり、ころんだりした時の感じ。②こちらの思っているのとちがったり、弱点をつかれたりして困る。

(5)「現代」3

①体の内部の故障や、外から加えられる打撃などで苦しくつらい。②（精神的に）打撃を受けて、閉口するさま。ひどい。つらい。③程度の甚だしいさま。主に連用形を使う。

(6)「日本」3

①打たれたり傷つけられたりして苦しく感じる。②弱みをつかれたりして心に苦しみをを感じる。③閉口する。まいる。

参考；「基礎」3

ショックを受けて肉体的、精神的に激しい苦しみをを感じる状態。①肉体的、生理的な苦痛。②精神的苦痛。③ある事態が結果的に祟る。

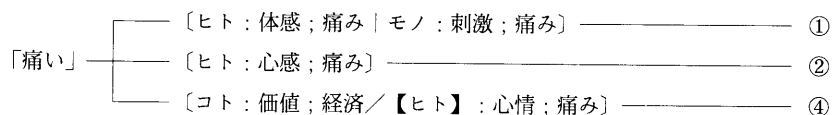
表化すると次のようになる。

- ①肉体的痛覚がある。
 ②弱点をつかれたりしてつらい。
 ③心がうずく。
 ④経済的に負担を感じる。
 ⑤程度が大である。(文語的)
 ⑥感にたえない。(文語的)

学研	新潮	岩波	例解	現代	日本	独立度
1 / 2	1 / 3	1 / 5	1 / 2	1 / 3	1 / 3	0.3677
1 / 2	1 / 6	1 / 5	1 / 2	1 / 3	1 / 3	0.339
／	1 / 6	1 / 5	／	／	／	0.061
／	1 / 3	／	／	／	1 / 3	0.111
／	／	1 / 5	／	1 / 3	／	0.089
／	／	1 / 5	／	／	／	0.033

主要な多義である①②④の意味特徴は、その相違に注目すれば次のようにまとめることができる。

- ①〔ヒト：体感；痛み | モノ：刺激；痛み〕 ②〔ヒト：心感；痛み〕 ④〔コト：価値；経済 / 【ヒト】：心情；痛み〕



注；「|」は、それ以前のものに対して「又は」を示す。「／」とは異なる。

〔体感〕〔心感〕といった感覚そのものを指す意味特徴を設ける理由と、その内容について述べておこう。一つは、「私は、足が痛い」などにおける「痛い」は、足の属性とすることに抵抗を感じるからである。むしろ、感覚感知主体である「私」の感覚そのものとした方が言語直観に近いと思われるからである。ただし、「この注射はとても痛い」などにおける「痛い」は、「注射」の属性(刺激)と考えてもそれほど抵抗はなからう。

〔体感〕という意味特徴を設定すると「おいしい」等はどうに扱うのかと言ったことがすぐに問題となろう。そこで、とりあえずここでは意味特徴〔体感〕〔心感〕は、次のようなテストによって判定することにしたい。

「A＋ハ、ノ＋身体部位、気持ち、精神、心＋ガ＋形容詞B」を満足させる場合、形容詞Bは、意味特徴〔体感〕又は〔心感〕を有するものとする。ただし、「A」は〔ヒト〕で、「部位」又は「気持ち、精神、心」は、感覚感知主体でかつ話し手である「A」の「身体部位」又は「気持ち、精神、心」であるものとする。

Ⅱ－11. 「おいしい(美味しい)」

(1)「学研」 1

- ①〔飲食物の〕味がよい。うまい。

(2)「新潮」 1

- ①(「うまい」の丁寧な言い方)味がよい。美味である。

(3)「岩波」 1

- ①味がいい。うまい。

(4)「例解」 1

- ①味がよい。うまい。

(5)「現代」 1

①物の味がよい。うまい。

(6)「日本」1

①よい味がする。うまい。

「おいしい」を分けているものはない。独立度＝1ということになる。

II-12.「さびしい(寂しい・淋しい)」

(1)「学研」3

①ほしいものが物が得られず、物足りない。②[人に相手にされなかつたり、相手になる人がそこに
いなかたり、物事が望ましい状態にならなかつたりして]心が満たされず、楽しい気分になれない。
③ひっそりしていたり、数が少なかつたり、内容がとぼしかつたりして、心細い。にぎやかさがなく、
気が滅入るようだ。

(2)「新潮」4

①気持ちが沈んでいる状態である。②頼る人もいず、孤独で、心が満たされない。③人の気がなく、
静かである。④あるべきものがなくて、物足りない感じである。

(3)「岩波」1(2)

①(本来の)活気が失せて、満ち足りない。イ、親しい人が居ないなどで、心が満たされず物悲しい。
ロ、心細く感じられるほどの状態だ。にぎやかでない。

(4)「例解」3

①しずかで、はなやかさがなく、心ぼそい感じを人にあたえる。②孤独で、心がみたされないで、満
足できない。③あってほしいものがなくて、満足できない。

(5)「現代」2

①人の気配がなく心細い。ひっそりしている。②満たされない気持ちである。物足りない。

(6)「日本」3

①話し相手もなく静かで心細い。②人気がなくとも悲しい。③もの足りない。

参考；「基礎」1

あるべきものがそこになくて、心が満たされず楽しくない状態。

表化すると次のように表すことが

できよう。

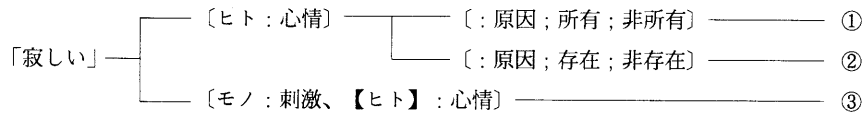
- ①得られず物足りない。
②(い)なくて心が満たされない。
③ひっそりとして心細い。
④気持ちが沈んでいる。

学研	新潮	岩波	例解	現代	日本	独立度
1/3	1/4	—	1/3	1/2	1/3	0.292
1/3	1/4	1/2	1/3	—	1/3	0.292
1/3	1/4	1/2	1/3	1/2	1/3	0.375
—	1/4	—	—	—	—	0.042

①②は、そのように感ずる理由・原因が意味として記述されるのが普通である。その理由・
原因によって①か②かが判定されるからである。「[ヒト]がさびしい」だけでは、①②の区別
はつかない。その意味で、①と②の意味の判定に大きく関わっている理由・原因といったもの
に注目し、それらを意味特徴の一つとして扱っていきたい。

主要な多義である①②③の意味特徴を、そのことをも考慮して示せば次のようにまとめるこ
とができよう。

①〔ヒト：心情：原因；所有；非所有〕②〔ヒト：心情：原因；存在；非存在〕③〔モノ：刺激、【ヒト】：心情〕



Ⅱ-13. 「さむい（寒い）」

(1)「学研」2 (3)

①気温が低くて、不快な気持ちになったりからだがちこまったりするくらいに、体温がたくさん奪われるようす。②「ひゅ的に」寒い(1)と感ずる場合と似た気持ちを表す。イ、恐ろしさなどのために、気持ちが縮こまる思いである。ぞっとする。ロ、貧しかったり、乏しかったりして、心細い感じである。

(2)「新潮」3

①気温が低く、不快感を伴うような冷やかさである。また、そのように感ずるさま。②恐ろしさなどで、ぞっとする感じである。身の毛がよだつ。③(俗語)貧弱である。なさけない。

(3)「岩波」2

①気温が著しく低い。また、それが全身的な(不快な)感じとして、肌を通して感ぜられる。②心細く貧弱なありさまだ。

(4)「例解」1

①火のそばが恋しくなるくらい、気温が低い。

(5)「現代」4

①気温が著しく低く感ずられるさま。②いかにも冷え冷えとして感ずられるさま。貧弱で情けないさま。③恐ろしさにぞっとする感じである。身の毛がよだつ感じである。④経済的に貧しい。みすばらしい。

(6)「日本」2

①気温の低いことを、体全体で感ずる。②ぞっとする。(参考；③(上に「お」をつけて)貧弱だ。)

表化すると次のようになる。

①気温が低い。

②冷え冷えと感ずられる。

③恐ろしさにぞっとする。

④乏しくて心細い。

学研	新潮	岩波	例解	現代	日本	独立度
1 / 3	1 / 3	1 / 2	1 / 1	1 / 4	1 / 2	0.486
—	1 / 6	—	—	1 / 4	—	0.069
1 / 3	1 / 3	—	—	1 / 4	1 / 2	0.276
1 / 3	1 / 3	1 / 2	—	1 / 4	—	0.236

④は「日本」にあるように、「お～」の形で使われることが多い。主要な多義である①③の意味特徴を、その意味上の相違に注目すれば次のようにまとめることができよう。

①〔ヒト；部位：体感；温度 | モノ：刺激；温度〕③〔ヒト：心感(体感？)；恐怖〕

「寒い」	〔ヒト；部位：体感；温度〕	①
	〔ヒト；心感（体感？）；恐怖〕	③

Ⅲ. 数量、実質、刺激を表す形容詞の多義分割基準

Ⅲ－１. 多義分割基準と意味特徴

（１）個々の多義語の語義を分ける大きな視点としては、先ず次のようなものが考えられる。

①品詞の別 ②語構成的機能（接辞、等）の別 ③文体（文語、等）の別

④位相（俗語、方言、専門用語等）の別 ⑤形態的、意味的制限（慣用句）の有無

上に挙げた視点と異なる次元のものとして概念的意味特徴がある。概念的意味特徴の別は多義の分割に重要な位置をしめている。

（２）数量、実質、刺激を表す形容詞の多義分割に働く主要な概念的意味特徴をこれまでの調査に基づいてまとめておこう。

１. 格体制

１－１. 「A<ガ>～」（<ガ>は、「主体」を表す）

１－２. 「A<ガ>B<ニ>～」（<ニ>は、「～に対して」を表す）

１－３. 「A<ガ>B<ニ>～」（<ニ>は、「～にとって」を表す）

２. 格成分の主要な意味特徴

２－１. 〔con（具体）〕、〔abs（抽象）〕

２－２. 〔モノ〕、〔ヒト〕、〔コト（ガラ）〕

３. 格成分に付随的な意味特徴（重要な下位範疇は括弧内に示した）

３－１. 属性（属性主体）等

〔実質〕〔刺激〕（〔明度、色彩〕〔糖分、塩分〕）〔時間〕

〔価値〕〔程度〕〔機能〕（〔切断、締め〕）〔体力〕

〔能力〕（〔行動力、精神力〕〔理解力、解決力、実現力〕）

〔姿態〕〔性格〕〔態度〕〔心情〕 等

３－２. 感覚（感覚主体）

〔体感〕（例；〔肉体的痛み〕）〔心感〕（例；〔精神的痛み〕）

３－３. 存在、所有（存在主体、所有主体）

〔存在〕〔所有〕

４. 評価

〔＋評価〕〔－評価〕

５. 原因・理由^③

（〔所有、存在〕）

形容詞全体では、上の挙げたもの以外のものが関与していることは言うまでもない。いずれ、残された形容詞を調査した上で総括的にまとめたい。

また、上に挙げた意味特徴は認識・認知の在り方と密接な関わりを持つ。認識・認知の在り方との関わりが明らかになることによって多義分割の基準も更に明確化されるものと思われる。そのことについては全ての基本形容詞語彙の調査が完了した上での課題としたい。又、これま

で指摘してきた主な意味特徴についても、その定義、範囲の整理等、課題として残されている。

1991. 10. 15

注

- (1) 丹保(1990c)、(1991b)等。
- (2) 丹保(1991a)で形容詞の一部(形状形容詞)について触れた。
- (3) 動詞においては〔目的〕が重要な位置を占めることがあるが(丹保1991b、c参照)、形容詞においては、動詞には見られない〔原因・理由〕が特殊な位置を占めるようである。
- (4) 「つよい」を性向の分類に入る考え方もある。
- (5) 「むずかしい」は、状態を表す形容詞とすべきか。

参考辞典等

- (1) 『学研国語大辞典』金田一、池田 編(1978)
- (2) 『岩波国語辞典』(第三版)西尾、岩淵、水谷、編(1979)
- (3) 『例解新国語辞典』林、野元、南 編(1984)
- (4) 『新潮現代国語辞典』山田、築島、白藤、奥田 編(1985)
- (5) 『現代国語例解辞典』林 編(1985)
- (6) 『日本語大辞典』梅棹、金田一、他監修(1989)
- (7) 『基礎日本語』1、2、3 森田 良行(1977、1980、1984)
- (8) 『角川類語新辞典』大野、浜西 共著(1981)(改訂版『類語国語辞典』1986)
- (9) 『日本語教育のための基本語彙調査』国立国語研究所(1984)

参考文献

- (1) 丹保 健一(1986a)「多義語の語彙特徴についての小見—副詞を中心に—」(『文芸研究』第126集)
- (2) 丹保 健一(1986b)「辞書間に見られる多義記述の相違について—音象徴語を中心に—」(『国語語彙史の研究七』)
- (3) 丹保 健一(1990a)「多義語における語義配列について—形容詞語彙(性状)をめぐる—」(『三重大大学教育学部研究紀要第41巻(人文・社会科学)』)
- (4) 丹保 健一(1990b)「五感語彙の多義性 多義の意味的広がりをめぐる—」(『金沢大学語学・文学研究』第19号)
- (5) 丹保 健一(1990c)「形状形容詞の語義分割をめぐる—」(『国語学研究30』)
- (6) 丹保 健一(1991a)「多義語における中心的語義と周辺の語義 『かける』の場合」(『文芸研究』第126集)
- (7) 丹保 健一(1991b)「多義語における語義の区切り方をめぐって 位置形容詞「高い」「低い」「遠い」「近い」の場合」(『三重大大学教育学部研究紀要第42巻(人文・社会科学)』)
- (8) 丹保 健一(1991c)「多義語における中心的語義と周辺の語義 『かける』の場合 (2)」(日本文芸研究会第43回研究発表会発表資料)